

何故遠藤メソッドが優れているのか

まえがき

「遠藤メソッド」の国際教育研究所 代表取締役社長 遠藤尚雄です。

次の3つの資料を 이메일で貴方にさしあげます。 少し読み辛いかもしれませんが、じっくりと読んでください：

「まえがき」 1 ページ

「日本人種の集団本能の強いことが「英会話」が下手な最大原因」 7 ページ

「スマホをお遊びでなく、もっと有効に使いましょう」 6 ページ

「教材の発注について」 1 ページ

「易しい英会話教材」 2 ページ

合計 16 ページ

今までの弊社の資料では「遠藤メソッド」ほど速く、しかも安く英会話が学べる方法は他には無いことが充分説明されていなかったのので、「遠藤メソッド」の良さを良く判って頂くためにこの同報通信を出しているのです。普通の「英会話」勉強法はネイティブの英語を沢山聴くことだと思われていま すが、このようなことをしても「英会話」が出来るようには絶対になりません。英会話学校やテレビ英語講座を聴き続けて英会話が出来ようになった人はいないのです。

私(国際教育研究所 代表取締役社長 遠藤尚雄)が開発した商標登録番号 4804511号の「遠藤メソッド」だけが僅かの 6 か月の練習でかなりの英会話力が出来るのです。即ち、幼児のうちにアメリカで育つと 1~2 年で英語がペラペラになるのですが、大人になってからだと幾らネイティブの英語を聴いても英会話ができるようにならないのを、それを 1~2 年でペラペラにするのがこの「遠藤メソッド」なのです。 どうすれば、そのように手品のようなことが出来るのかをこの同報通信を読まれると判るのです。一般の日本人は学校での勉強時間、会社での仕事時間、と家庭での家事の時間が多いので、英会話勉強時間が最も少ない「遠藤メソッド」でさえ勉強する時間が無いと思われてられるでしょうが、幼児期の 1~2 年で英会話がペラペラになると同じ程の短期間で英会話が出来るので、これだけの時間、即ち最低毎

日1時間、出来れば毎日2時間、の練習を6か月は是非とも続けてください。

●日本人種の集団本能の強いことが「英会話」が下手な最大原因

今より70年前に日本がアメリカに徹底的に負かされる前に日本軍人は特攻隊員としてゼロ戦闘機でアメリカの航空母艦に体当たりしたり、負けることが判っていても降参しないで玉砕するなど「日本人種は徹底的に集団本能が強い人種」であることを世界に知らしめましたが、この日本人種の集団本能が団塊の世代が日本経済と日本文化を急速に発展させたのです。集団本能が強いと欧米先進国の真似が上手なのです。この集団本能が故に「人の真似しばかりをしたり」、「流行に弱い」と言う特徴を日本人は持っているのです。そして、これが故に「日本人はフランス製の流行品を世界で最も多く買っているのです。

そして、この異常なまでに強い集団本能が故に日本人は「英会話」に弱いことに貴方はお気づきでしょうか。「真似ぶ」から「学ぶ」の言葉が生まれたように、学ぶことは真似ることなのです。しかし真似が上手な日本人は英語発音や英文法をイージーに真似るので、中途半端に真似てしまい、皮肉にも返って上手には真似ることが出来ないのです。その典型例は日本人が約2000単語ほどの基礎的な英単語をたやすく、イージーに日本語カタカナの間違った発音で真似てしまっていて日本語化してしまっていることです。このような間違った英語発音のままアメリカ人と英会話をするものだからなかなか英会話が上手にならないのです。これは致命的なことです。この発音間違いを無くすために「遠藤メソッド」では最初に「口と舌の形から学ぶ英語発音」教材を学んで頂いているのです。この発音教材で50種類もある英語発音の音素（母音と子音）を日本人に徹底的に教え込み次の4人のような「日本人離れした」完璧なアメリカ語発音が出来る様に育てているのです。

<http://www.pasoccon-eikawa.net/hatsuon/yushu/sample.html>

この問題をもっと詳しく説明しましょう：日本人は英語発音に徹底的に弱いのです。50種類もある難しい英語発音音素を日本語のカタカナでは僅かの

15種類しか発音音素がないので英語発音を正確に学ぶことが出来ないのです。そして英語発音が正しく学べないと「英会話」が出来ないのです。

次に英語発音で使う50種類の国際発音記号(音標文字)と日本語発音に使われている15種類の国際発音記号を表にしてみました。日本語にはわずかの15種類の国際発音記号しか無いのは、音標文字として使われている51音のカタカナには「ア、イ、ウ、エ、オ、ン」の6つの母音と「カ、サ、タ、ナ、ハ、マ、ヤ、ラ、ワ」の中の[k, s, t, n, h, m, j, r, w]の9種類の子音しか使われていないからです。合計僅かの15種類です。

英語発音で使われている50種類の発音記号：

[ɑ:] [ɒ] [æ] [ɔ] [ʌ] [ɔ:] [ɛr] [ə]
 [i:] [ɪ] [u:] [ʊ] [e] [o] [ei] [ai]
 [au] [ɔi] [ou] [ɛr] [uər] [ɛər]
 [ɔ:r] [ɔ:] [t] [d] [n] [l] [r] [θ]
 [ð] [m] [p] [b] [f] [v] [h] [k] [g]
 [tʃ] [dʒ] [ts] [dz] [ʃ] [ʒ] [j] [w]
 [s] [z] [ŋ]

カタカナで使われている15種類の国際発音記号：

[a] [i] [u] [e] [o] [ン]
 [k] [s] [t] [n] [h] [m] [j] [r] [w] ([r] と、[ラ] から母音の「ア」を除いた子音とは音質が全く違い、舌の位置も動かし方も違うのです。)

日本人が英語発音に弱い典型例をだしましょう。それは「シの濁音即ちジ」と「チの濁音即ちチ」は音質が違うのに日本人はこの区別がつかないのです。「シの濁音」は摩擦音の濁音で「チの濁音」は破裂音の濁音なのに、日本人は両方ともに破裂音の濁音で発音してしまうのです。だから garage と large の ge の違いが聴き取れないのです。

又日本人が徹底的に英語発音が下手であることを国際発音記号で説明しました：

宮殿、裁判所の「コート」 : 背広の上着「コート」 : catch の過去形の

「コート」 : 耳の「イアー」 : 空気の「エアー」 : 或いはの「オア」 : you are の「アー」 : 自動車の「カー」 : 公園の「パーク」の9個の単語の例を見てください。英語のスペル、カタカナ、カタカナを国際記号で表したものを、正しい国際発音記号、の4種類で表示しました。このように日本語カタカナと正しい英語発音とは全く違うのです :

カタカナ発音だとこのように間違う

スペル	単語の意味	カタカナ	カタカナを国際発音記号で表示	正しい国際発音記号表示
court	宮殿、裁判	コート	koto	kɔ:rt
coat	背広の上着	コート	koto	kəʊt
caught	catchの過去形	コート	koto	kɑ: t
ear	耳	イアー	iɑ:	iə
air	空気	エア	eɑ:	eə
or	或いは	オア	oɑ:	ɔə
are	you areの	アー	a:	ɑ:
car	自動車	カー	ka:	kɑ:
park	公園	パーク	paku	pɑ:k

上記に9種類のカタカナ英語の発音が間違っている例を出しましたが、更にもっと卑近な例を出しましょう :

「パリのアメリカ人」と言う非常に有名なミュージカルがありますが、この題名の英語は An American in Paris です。この An American in Paris をカタカナ発音と英語発音で国際発音記号で表示すると次のようになります。間違っているところを赤文字でしめしました :

[a^ン ame^リka^ン i^ン pa^リsu]

日本語発音

[æⁿ ə^merikən in pə^ris]

アメリカ人の発音

日本語発音では赤文字の発音が全て間違っているのです。「ン」が間違っているのは正しい英語発音では [ŋ] は [nɑ, ni, nu, ne, no] のカタカナのなかにある子音」なのですが「ン」はカタカナのなかの50番目の「お終いの「ン」」なのです。これは子音ではなく母音なのです。

日本語の[ŋ]と英語の [ŋ] とは全く違うのです。 [ŋ]は曖昧母音と言っているものです。

「リ」についてはカタカナの「ラ、リ、ル、レ、ロ」から「ア、イ、ウ、エ、オ」の母音を除いた子音と英語発音の [ra, ri, ru, re, ro] から母音を除いて残る子音の [r] とは音質が全く違うのです。日本語では舌が上顎にくっつくのですが、英語の場合は舌は上顎から離れているのです。

また [u] は日本語では子音のあとには必ずこのように母音をつけるのですが、英語では子音のあとには母音を入れないのです。

2000語もの英単語が正しくないカタカナ発音で日本人は覚えてしまっているので、このような正しくない英単語の発音のままではアメリカ人の正しい発音を聴き取っても、それが理解出来ず、又日本人の発音がネイティブには通じないのです。したがって幾ら「英会話」の勉強をしても「英会話」が上手にはなれっこ無いのです。

「遠藤メソッド」では口と舌の形から学ぶ英語発音DVDで英語の国際発音記号 種類を 時間ほどをかけて完全に教え込むのです。其れから「ヒアリング・スピーキング」を学ぶのです。 そうしないと「ヒアリング・スピーキング」が上手にはならないのです。 このようなことは貴方は全く知らなかったでしょう。

更に日本語文法が不完全であり、単語の意味の理解が厳密でないことから日本人は「英会話」が上手にはなれないのです。

「遠藤メソッド」を35年間も日本人に教えて来た経験から次のことが私には判って来たのです。

即ち、日本語でも英語でも言語と言うものは話者が思っている複雑なことを誤解なく聴き手に伝えることです。しかし日本語には不完全なところが沢山あるので日本語では十分に意思疎通が出来ないのです。英語にはなく日本語にしかない「以心伝心」と言う言葉を考えてみましょう。これは日本語には不完全なところが色々あるので、相手に自分の考えていることが正確に伝わらないので話者の考えていることを聴き手が察することを言っているのです。このようなことでは、即ち日本語がこの様に不完全なことにすっかりと慣れきっているようでは、もっと厳密に意思疎通がはかれるように仕組みられている英会話を日本人はマスター出来る筈がありません。

日本語が不完全な例を幾つかあげましょう：

- ① 文章には主語（名刺、代名詞）と述語（動詞）が必ずあり、英文はそのように文章が作られています。例外として（命令形）には you という主語を抜かします。其れは話者の目の前にいる人が you なので、you, you, you と何度も主語を言わなくとも相手には通じるからです。ところが日本語ではそうではありません。命令形以外にも主語を言わない文章が沢山あるのです。最初の幾つかの文章の主語は同じ人であっても、そのあとの文章の主語は異なる場合があるのに日本語では最初の文章の主語は省略しても相手には判るが次の文章の主語が変わると、その新しい主語を使わないと誤解を招く恐れがあることに気づかずに主語を抜かしたまま日本語をしゃべるのです。英語では命令形以外では一つ一つの文章に主語を必ず入れているのです。
- ② 日本語には「現在完了形」がありません。英語の「現在完了形」には「今完了したところ」、「過去にその経験がある」、「同じ動作が過去から現在まで

続いている」、「過去にある動作が起こった」の4種類の時制があるのですが、日本語ではこの4つの時制を「過去形」一つで片づけているのです。

- ③ 英語には「過去完了形」(例: could have done, would have done, should have done, might have done 等)があつて色々複雑なニュアンスを相手に伝えるものなのに日本では学校の英語の先生自身がこれを理解していないので生徒にも説明がなされていないのです。 貴方は正しく「過去完了形」が使えますか？
- ④ 日本語単語の意味が正確に理解されていないので、英会話の英単語の意味も正確に理解されず、従つて英会話が上手にはなれないのです。 具体的な例を2つあげましょう：
英単語の confirm (確認する) の最も重要な意味は：陳述、証拠などを真実(正当、正確)だと立証する、裏付ける、確認する、です。 これは他動詞で、その目的語が非常に重要で、内容が複雑なものなので、厳密に調べて、それが正しいことを confirm する、と言うのが confirm の眞の意味なのです。
ところが、この confirm には上記の意味よりも重要でない「軽く調べる」だけの意味もあり日本人はこの意味で confirm (確認する) を使っており、他動詞の目的語の意味内容を厳密に調べるとの意味では confirm (確認する) は使っていないのです。 他にも「大丈夫」と言う日本語が最近非常にはやってきましたが、これは全くの誤用です。 そもそも「大丈夫」の[大]は非常に (very much) の意味で、「丈夫」とは「健康である」と言う意味から机や家が「頑丈である」の意味に本来は使われているのに、最近の「大丈夫」は Yes, OK, それで満足している、の意味にしか使われていません。 これは非常に可笑しいことです。 このような単語の誤用が日本語では盛んにあるので、単語の意味を厳密に使っている英語文章の「英会話」には使えないのです。 即ち日本人の単語の使い方が厳密でないと「英会話」は上手にはなれないのです。
- ⑤ 次に英単語の意味自体が理解できないのではなく、英単語の発音が聴き取れないので意味も理解出来ないケースなのですが、garage と large では…と…と発音が違っているのに、日本人は耳が悪くてこの区別がつかないので単語の意味を取り違えるのです。

このように日本人は耳が悪く、又単語の意味を正確に区別出来ないので、「英会話」が上手にはなれないのです。

日本語文法が不完全であり、単語の意味の理解が厳密でないことから日本人は「英会話」が上手にはなれないとは言っても、私の「コーチング」を受けると、これらの問題は解決できるのです。

既に他の資料でお知らせしていると思いますが、「英会話」はスポーツと同様に「芸事」なので「一人練習」が必要でその場合は優れたコーチからの軌道修正が必要なのです。

私は「技術者」として、特に「脳心理学的」に「英会話勉強効率」を上げる事を徹底的に研究して来ただけに、上記のようなことを日本人にお知らせすることが出来るのです。

●スマホをお遊びでなく、もっと有効に使いましょう

地下鉄に乗っていると私の前の座席には一列で7人の乗客が座っています。そのうち5名か6名がスマホを使っています。どのようなことに使っているかと言いますと、和文、英文、人の顔写真、景色の写真、動物、花等を見ているのです。要するに「お遊び」です。このようなスマホの使い方は非常に時間が勿体ないですね。

最近のような文明社会では少しでも時間があると本を読んで勉強すべきです。電車内での有効な時間の使い方は読書か眠るかです。これをしている乗客は一列7人の乗客のうちのわずかの二人か一人に過ぎません。あとの乗客は皆スマホで遊んでいるのです。

しかし、スマホを電車内で有効に勉強に使う方法があるのです。それをお教えしましょう。

スマホで「英会話」を趣味と実益をかねてやりませんか？ 楽器演奏やスポーツ同様に「英会話」も「芸事」として楽しみながら勉強出来るのです

最近私がテレビの1チャンネルから8チャンネルを見ていて気付くことがあります。それは戦後団塊の世代が頑張ってくれたので日本は経済力がつき日本の文化が非常に進み、子育てをしながら家庭婦人が音楽演奏、バレエ、スポーツを楽しんでおり、更にテレビにも教養番組が非常に増えてきているのです。男性は仕事で忙しいけれども、それにしても、電車内でもギターやバヨリンなどを持ち込み、楽譜をみながら指を動かしているのを良くみます。スポーツも非常に活発に参加しています。テレビを見ていてもスポーツの実況放送が目立ちますね。大人だけでなく子供にもこのような習い事を盛んにさせていますね。

ここで皆さんが気づいていない非常に重要なことを申し上げます。それは生活

レベルが上がり「芸事」としての音楽演奏、バレエ、スポーツに参加し、更にはテレビの教養番組を見るようになってきたのなら、何故音楽演奏、バレエ、スポーツ同様に趣味と実益をかねて同じく「芸事」である「英会話」をやらないのですか？ 本質的には音楽演奏、バレエ、スポーツと全く同様に英会話は「芸事」なのです。

何故この「英会話」という芸事を皆さんやらないのか？ 「グローバルイゼーション」の波に乗って、もっと自己の教養を高めないのですか？

それには理由があります： まず、英会話が出来なくとも日本では生活に困らないことと、「英会話」をやってみても、なかなか出来るようにならないからでしょう。

台湾、韓国、中国などは「英会話」を盛んにやっているのですよ。

日本の家電業界は技術力ばかりを高めてきたのに反して、韓国のサムソンは仕様を限定した安い家電製品を後進国に大量販売してきたので、世界一の家電製品メーカーとなり、そのあおりを食って日本の大手家電製品メーカーは皆赤字になってしまったのです。

そしてサムソンは、更に日本人より賢く、国際競争力をつけるには「英会話力」をつけるべきとの判断から「TOEIC 900 点」の成績表だけで無試験でサムソンは新入社員を入社させているのです。

しかし日本の会社で「TOEIC 900 点以上」を入社条件とすると誰も採用できなくなるでしょう。何故なら日本の大卒の英会話力は TOEIC 450-500 点だからです。それ程日本の学生は英会話勉強をしていないのです。他のアジア人より遥かに文化レベルの高い日本がこのようなことで良いのでしょうか。

外国進出を積極的に考えている楽天、ユニクロ、イタリア人が社長の日産自動車などは英語を社内の公用語にしている程なのです。日本人は刀鍛冶や陶芸の分野で古くから職人氣質で技術が優れており高度技術製品での外国進出を狙っている日本企業が他にも多くあり、彼らは英語の公用語化を考えているのです。また最近数年はアメリカの有力企業は自国での製品売り上げが落ちてきたので、その挽回のために、日本に進出するために子会社を設立し英語のできる日本人を大量に採用しているのです。しかも最近の日本の技術力は欧米よ

り優れてきており、昔はドイツが一番であった刃物やカメラで日本が一番になっているほどです。

益々グローバル化が進み、日本の技術力から輸出が伸びてきている時に、「英会話」はグローバル化に役立つものなのに何故日本人はこの「英会話」勉強をしないのでしょうか。

「英会話」を勉強してもなかなか上手にならない理由を幾つかあげましょう。皆さんはこのように気づいていないので未だに「英会話」が上手になっていないのですが、私はこのように何十年も前、即ち中学1年で初めて学校で英語を習いだした時から気づいて、その対策を立てて来たので、私の日本語と同じ程度の英会話力がついており、私が開発し商標登録となっている「遠藤メソッド」というこの英会話教育法で学んでいる生徒さんは僅かの6か月でかなりの程度の英会話力がつくようになるのです。このあと更に2年「遠藤メソッド」の練習をすると私のように日本語と同等の英会話レベルになるのです。私は過去35年間この「遠藤メソッド」を1万人以上の日本人に適用してきており、実証済みなのです。

日本人が「英会話」に失敗する理由をあげましょう：

- ① 日本人はアメリカ人の先生から英語の発音を聴かされても、それが真似し出来ないと言う不思議なことがあるのです。貴方はこのことをご存じでしょうか？ 英会話学校のアメリカ人の先生は日本人生徒に対して始めに発音を教えようとするのですが、日本人はこのアメリカ人の先生の英語発音が真似できないのです。どうすれば30～60時間の練習時間で次の4人の私が教えた生徒のように日本人離れした英語発音になれるのかは「遠藤メソッド」の生徒になれば「口と舌の形から学ぶ英語発音」、別名「遠藤メソッド式 英会話速習プログラム-発音編」¥19,800 でお教えしましょう：
<http://www.pasocan-eikawa.net/hatsuon/yushu/sample.html>
- ② 上記のように貴方の英語発音が上手にならない限り、アメリカ人の英会話で発音される英単語が聴き取れないので、アメリカ人の英会話を聴かされても貴方の英会話は上手にはなれないのです。
- ③ 幼稚園時代は「動物性」が強いので「芸事」がすぐ出来るのに、「動物性」が弱くなってしまった大人になってからは「芸事」は出来るようにならな

いで、「右の耳から入った長い文章は左の耳から抜け去ってしまうだけで、永久メモリーに記憶されないので、「遠藤メソッド」では特殊な方法により永久メモリーに記憶させる方法を採用しているのです。幼児時代のようにただ日本語なり英語なりを聴かせるだけでは日本語会話、英会話はペラペラにはならないのです。此のことが判らないので日本人は英会話学校でもラジオ、テレビ英会話講座でも、タダ長い文章を聴くことばかりをしているのです。更に、もっと速度が速く、文章が長い日本語訳付きのアメリカ映画やCNN放送を聴き続けていても一向に英会話力はつかないのです。

- ④ 全ての「芸事」は単純な体の各部分の動きを繰り返すことによって、その体の動きが反射運動として身に沁み込むことなので、この繰り返しが絶対に必要なのです。浅田真央さんのアイススケイティングでは前回のオリンピックから次回のオリンピックまでの4年間、毎日5時間スケイティングリンクで練習を積むので、合計5時間/日×365日/年×4年＝7300時間も練習するのです。「英会話」の「芸事」の場合はもっと少ない練習時間でも良いのですが、其れにしても最低6か月（360時間）の練習量が必要なのです。浅田真央さんのように毎日5時間、4年間、も練習しなくとも、毎日2時間、6か月で良いのです。
- ⑤ とにかく「芸事」では十分な練習が絶対に必要なのですが、スポーツでは次の2つの本能が働くので自然に練習量が確保できるのに、英会話と言う芸事にはこのような本能により充分練習が出来るようにはならないのです。スポーツで働く本能は次の2つなのです。第一の本能は「動くものを追いかける本能」がライオン時代から動物にはありますが、この本能が人間にも働くのです。球技がそれです。バスケットボール、野球、テニス、サッカーなど全て人間は動くものを追いかける本能をもっているのです。もう一つの本能はスポーツでは勝ち負けがありますが人間には「試合の相手に勝とうとする本能」が働くのです。「英会話」では、上記の2つの強力な本能が働かないので「英会話」はスポーツのようには上手にはなれないのです。
- ⑥ しかし「英会話」では上記の⑤の本能が働かなくとも、人間には「自己を向上させようとする本能」があるので、これだけでも働かせれば、もう少しは「英会話」勉強に時間をかけることができるのです。そこで私はこの本能を利用することを提唱しているのです。具体的には発音練習の前に第1回目のTOEICテストを受け、第2回目のTOEICテストを6ヶ月あとの「ヒアリング・スピーキング」のNew Dynamic

English を終了した時に受けて頂くのです。普通の「英会話」の勉強法ではなかなか TOEIC 点数があがらないのですが、「遠藤メソッド」の場合はわずか6か月で 350 点も TOEIC 点数が上がった生徒もおり、信頼出来る数値としては 20 人に 6 か月「遠藤メソッド」で勉強して貰った場合の TOEIC 点数の平均値の 138 点を採用すれば良いのです。これがわずか6か月で実現しているのです。ただし TOEIC テストは申し込んでからテスト結果が判るまでに 6 か月程もかかるので私は申し込んで当日に結果がでる CASEC テストを 6 ヶ月間隔で受けて貰って、その数値を TOEIC 点数に換算しているのです。この CASEC は英検が作ったもので信頼性は TOEIC よりも優れているのです。又テスト費用も ¥3,500 と安いのです。

- ⑦ またネイティブの英語文章は速く発音され、これでは耳が英語発音の速度に慣れていない大人の日本人には聴き取れないので、「遠藤メソッド」ではネイティブの発音速度よりも、もっと遅くネイティブにしゃべらせ、日本人の生徒にもゆっくりと発音する練習をして貰っているのです。

上記のうち⑤の本能は人間には働かないのですが、他の6つの①、②、③、④、⑥、⑦の対策を私は立てているので、「遠藤メソッド」では普通の英会話学校で教える速度の10倍速度となり、また教育費も80分の1と少なくなっているのです。

他のアジア人が日本人より英会話が出来るのは上記の6つのマイナス要因のうち、他のアジア人は小さい子供の頃から英会話勉強を始めており、また他のアジア語発音と違って日本語発音のみが非常に英語発音より離れているからです。このことは「遠藤メソッド」の「発音教材」で懇切丁寧にお教え致します。又中国語の文法は英語と同じように「主語→他動詞→目的語」と「前置詞→前置詞目的語」となっているのです。しかし日本語文法では「主語→目的語→他動詞」と「前置詞目的語→前置詞」となっているので「英会話」の場合に「主語→他動詞→目的語」と「前置詞→前置詞目的語」の順序で日本人の頭が動かないのです。

上記を読まれて貴方も「英会話」と言う芸事をする気になられたでしょうか。それなら、そのことを私にお知らせください。国際教育研究所 代表取締役 社長 遠藤尚雄 です。次の携帯電話 090-7255-6622 に電話してください。

「発音教材」¥19,800 の DVD と「ヒアリング・スピーキング教材」 1 カ月レンタル ¥15,000 の DVD をお渡しし、これを自宅でパソコンを使って聴くか、電車内でスマホで聴くのです。 毎日2時間聴くので、1カ月に60時間の練習ができ、1時間当たりの練習費用はわずかの250円なのです。 1年間継続してレンタルをすると、1カ月¥7,500 とさがるので、1時間125円と更に安くなるのです。

電車内がやかましくとも、ヘッドセットを使うので英語発音がきれいに聴き取れるのです。 また英会話練習中に自分でも声を出して英語で復唱する必要があるのですが、マスクをかけて、その中にマイクを忍ばせておくと外部の乗客の邪魔にならないのです。

また、弊社では懇切丁寧な「コーチング」をさせていただきます。 オリンピックスポーツの選手は「コーチ」をつけているのと同じ理由で「英会話」の芸事にも「コーチング」が必要なのです。 なぜなら「芸事」は「一人練習」するものなので、どうしても我流に流れて悪い癖がついてしまうので、そうならないように優れた「コーチ」から「軌道修正」を受ける必要があるのです。

そうすると、この資料に書いてあることが「眉唾」でないことがお判りいただけます。

また「芸事」としての「英会話」練習には毎日最低1時間、理想的には2時間の練習時間が必要なのに貴方は仕事や家事に忙しくて練習時間が全く取れないのに、それにも拘わらず、3時間45分/日の練習時間を作り出す方法をお教えしましょう。 次の URL を読んでください：

<https://pasoccon-eikaiwa.net/endo/2jkn.docx>

●教材の発注について

「遠藤メソッド」の一般的なことは国際教育研究所 代表取締役社長の遠藤尚雄からお客様にメールでだされますが、「遠藤メソッド」教材の受注は次の所で致します：

endo@pasoccon-eikaiwa.com、 **携帯電話** 090-7255-6622

教材代金は次のようになっています。 代金支払いは次の所にしてください：
朝日信用金庫 南篠崎支店 普通口座 0302484 遠藤尚雄

教材代金内訳：

- ①英語発音教材 DVD 3 枚： ¥18,900 （最初はこれのみ購入してください。）
- ②DynEd NDE アリリング・スピーキング教材 DVD 1 枚である程度の英会話力をつけるまでの動 画音声のレンタル料 ¥15,000×5 ヶ月=¥75,000
1 カ月単位で¥15,000 レンタルをすることも可能。 また、12 ヶ月分一括発注の場合は¥7,500 月×12 ヶ月=¥90,000 でも良い。

発注方法：

- A. ある程度英会話が出来るようにするには
¥18,900+¥75,000=¥93,900（毎日2時間で6ヶ月）
- B. 発音のあと DynEd レンタル料を 12 ヶ月纏めて発注すると単価が半額の ¥7,500/月になるので ¥18,900+¥90,000=¥108,900（毎日2時間で13ヶ月）
- C. 教養あるアメリカ人並みの英会話力をつけるには
¥18,900+¥135,000=¥153,900（毎日2時間で発音1ヶ月+DynEd 1.5年）

「遠藤メソッド」ではこのように 非常に短い勉強期間で英会話力がつくのです。普通の英会話学校に10年程通ってようやく簡単な英会話力がつくので、これには1時間 ¥10,000（有能なアメリカ人の先生から1対1で習う場合）、1週間に1回ですから、1年52週間、10年520週間で ¥5,200,000（520万円）も費用がかかるところが「遠藤メソッド」では僅かの ¥93,900 ですむのです。一方英会話力をつけるためにアメリカ留学すると5年留学して日本で「遠藤メソッド」を6か月練習して得られる英会話力になれるのです。1年の米国留学費用は少なく見積もっても150万円はかかります。その5倍は750万円です。

これを考えても「遠藤メソッド」が如何に安いかがお判りでしょう。安いだけでなく非常に短期間で英会話力がつく、特に1年7か月「遠藤メソッド」を勉強するとアメリカ人のインテリ程度の英会話力になるのです。又ここまですになると英書が速読して意味が判るようになるのです。

●易しい英会話教材

「遠藤メソッド」の「英語発音教材」及び「ヒアリング・スピーキング教材」

は非常に速く英会話が学べ、しかも貴方の母国語である日本語と同様のレベルまで英会話力と英文速読力がつく英語勉強法なのですが、毎日最低1時間、しかも最低6か月は英語練習を続けねばならないのです。

そこで、之では「厳し過ぎ」て落伍する生徒がいるのです。しかし落伍しないで英語言語係数 1.0まで行かなくとも良いとかんがえているせいとは全体の60%もいることがわかりました。この人達は外人と少し英語で話せて友達になれば良いと考えている人達なのです。

そこで弊社ではこのような人達に適する非常に易しい英会話教材も容易していますので、発注の際に「厳しい教材」なのか「易しい教材」のどちらをのぞまれるのかをお知らせください。

成人にも「易しい英会話」を望まれる人が多いのですが、子供には全て易しい教材でないと勉強してくれないのです。遊びながら英会話が学べる方法が必要なのです。弊社ではこのように子供にできする易しい教材も提供しているのです。

国際教育研究所 代表取締役社長 遠藤尚雄



〒133-0065

東京都江戸川区南篠崎町 1-6-14

ケアレジデンス東京アネックス 106

電話 フリーダイヤル 0120-322-989

携帯電話 090-7255-6622

メールアドレス : endo@pascon-eikaiwa.com

Skype Name: ieiendo

